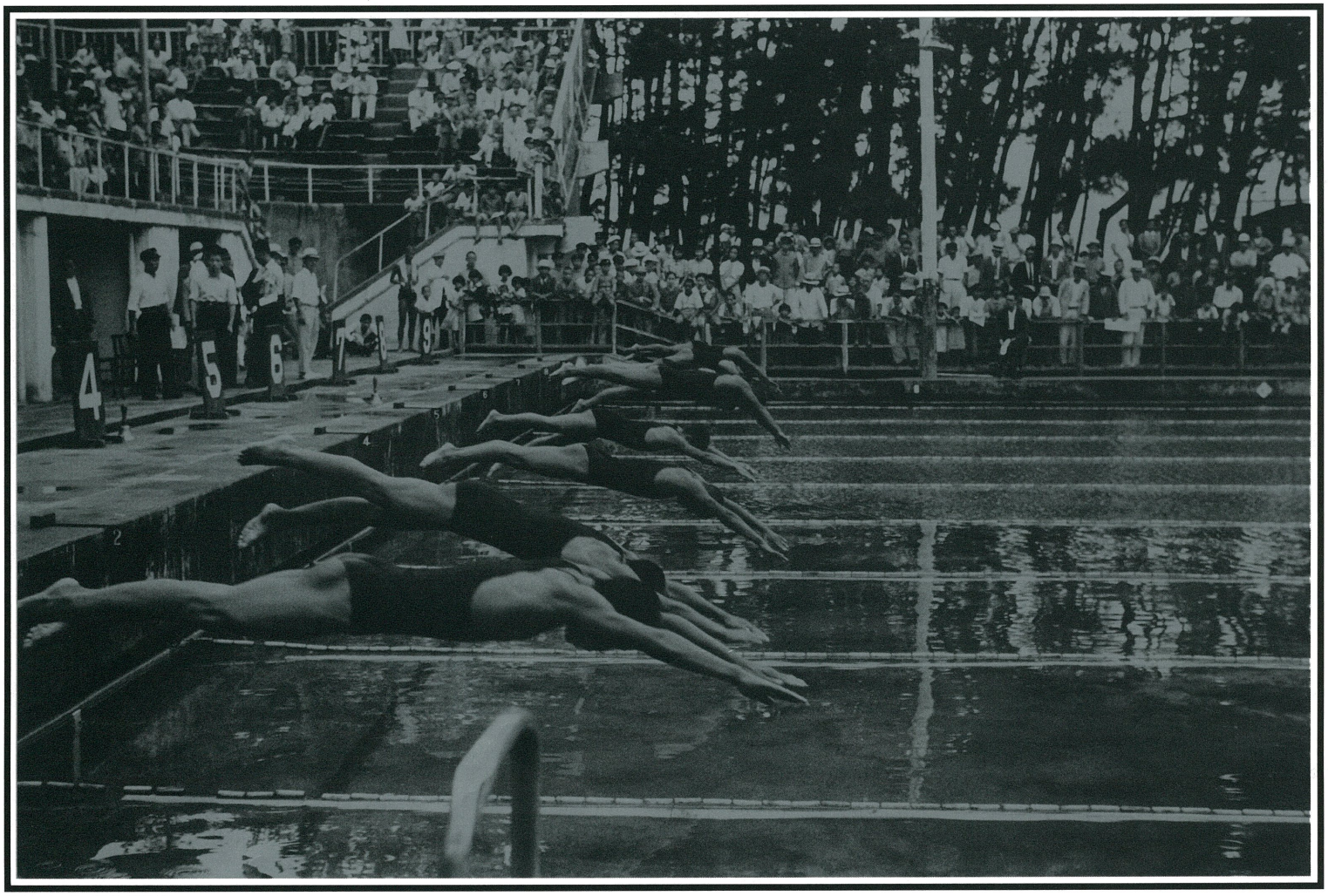
青年とライカ

清川泰次がライカⅢaで写した昭和初期の学生生活

A Youth and *Leica* in the Showa era

Photographs of College Life taken by TAIJI KIYOKAWA



昭和14年8月　撮影:清川泰次

二〇〇七年七月二十八日（土）
から
十一月二十五日（日）まで

世田谷美術館 成城分館
清川泰次記念ギャラリー

すべて昭和15年　撮影：清川泰次

青年とライカ

清川泰次がライカⅢaで写した昭和初期の学生生活

A Youth and *Leica* in the Showa era

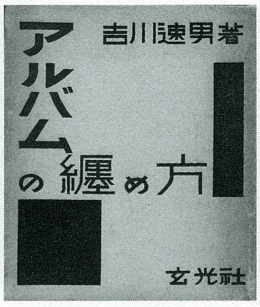
Photographs of College Life taken by TAIJI KIYOKAWA

戦後、アメリカへの留学などを経て抽象画家として独自の表現を模索した清川泰次（1919ー2000）が、その若かりし頃に膨大な数の写真を撮影していたことは殆ど知られてきませんでした。彼は1936年に慶應義塾大学経済学部予科に入学してほどなく、絵画と写真に没頭したのです。約5000点の様々なフィルムが現存しており、その約三分の二が大学生時代に撮られたものと推測出来ることからも、当時の熱中ぶりが窺えるでしょう。

中でも、清川が特に心を奪われたのはライカでした。清川は大学の写真部に所属したのちにⅢa型（1935年発表）を入手、稀代のライカの名手であった木村伊兵衛氏の中央光房を訪ね、当時発売されたライカの手引き本を多数愛読しながら、自らの生活のあらゆる場面を撮影したのです。

本展では、清川泰次が大学在籍時にライカⅢaで撮影したもののうち現存する約3400点の35mmフィルムから80点を厳選して初公開すると共に、学生時代に清川が愛読したライカ関連の書籍もあわせて展示することによって、ライカという唯一無比のカメラの魅力、当時の学生生活、そして昭和初期という特異な時代に迫ろうとするものです。

※ライカとは、エルンスト・ライツ光学機器製造会社が1913年に発表し今日まで改良を重ねているカメラの総称。今日の35mmフィルムを使用する小型カメラの礎となったことでも余りに有名です。

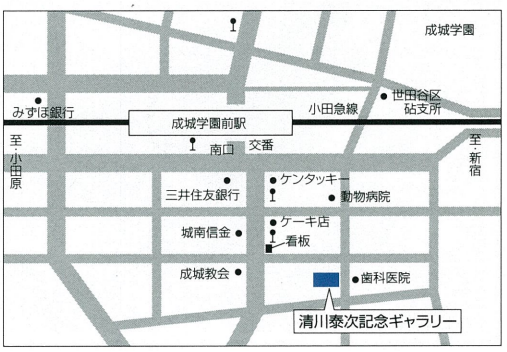


（左から）吉川速男著『私のライカ』1933年、『写し方全集』1938年、『ライカの旅』1938年、『アルバムのまとめ方』1938年 玄光社刊／畑宗一著『ライカ写真入門』1936年 アルス刊／ 間宮精一著『ライカの使ひ方』1938年 アルス刊

2007年7月28日（土）から11月25日（日）まで

世田谷美術館 成城分館
清川泰次記念ギャラリー

●開館時間／10:00ー18:00（入館は17:30まで） ●休館日／毎週月曜日（ただし休日と重なった場合は翌日） ●観覧料／一般200円（160円）、大学生150円（120円）、中小生100円（80円）、65歳以上及び障害者の方100円（80円）※（　）内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日及び夏休みの間無料。 ※障害者で小・中・高・大学生、及び障害者の介護者（該当障害者に一人につき一人に限る）は無料。●お問い合わせ／〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL:03（3416）1202　http://www.kiyokawataiji-annex.jp ●最寄交通機関のご案内／小田急線「成城学園前」駅南口徒歩3分



本館情報　世田谷美術館　〒157-0075 世田谷区砧公園1-2　TEL:03-3415-6011（代）

〈企画展〉「福原信三と美術と資生堂」9月1日（土）ー11月4日（日）

「パラオ―ふたつの人生　鬼才・中島敦と日本のゴーギャン土方久功」11月17日（土）ー2008年1月27日（日）

〈収蔵品展〉「夢からの贈り物　ルオー・ルドン・長谷川潔・駒井哲郎」8月11日（土）ー12月2日（日）

分館情報　会期：7月28日（土）ー11月25日（日）

駒沢分館　向井潤吉アトリエ館　〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1　TEL:03-5450-9581
「向井潤吉　構図と色彩　その視覚と風景」

奥沢分館　宮本三郎記念美術館　〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13　TEL:03-5483-3836
「戦後美術と宮本三郎　新たな潮流との対峙」